



並木中等進路だより

NO.3

JULY 23, 2015

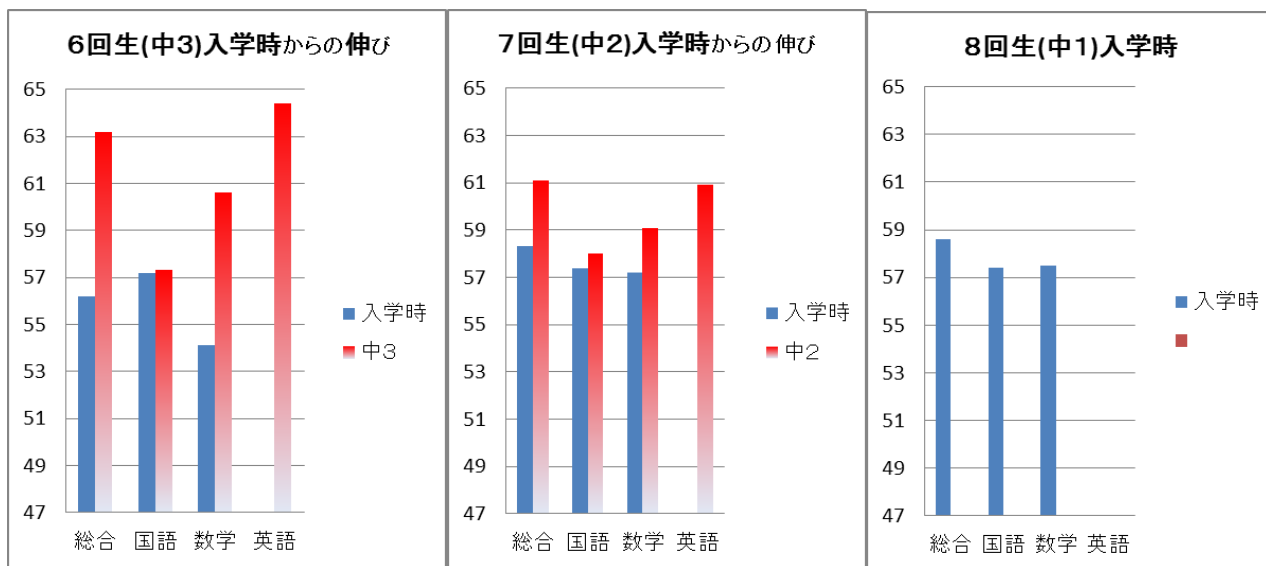
茨城県立並木中等教育学校学習進路部

努力すれば必ず伸びる：前期課程「学力推移調査」結果

中等前期課程の1・2・3年生は、4月27日に学力推移調査を実施し、その結果が過日各生徒に返却されました。下のグラフでは、入学時4月の学力推移調査平均偏差値の結果(左)と、今年4月の結果(右)をそれぞれの年次で比べています。例年言えることは次の2点です。

- ① 年を追うごとに入学生（4月時点での）成績がアップしている
- ② 並木中等では必ず入学時よりも生徒の成績が飛躍的にアップする

①に関しては、並木中等の受検生や保護者の皆様が、並木中等の教育活動にご理解をいただき、年々期待をしていただいている結果だと考えております。それに応えるべく、並木中等では、各授業内容のレベルアップと英語・数学を中心に補習の徹底を図り、その結果として、生徒全体の成績が入学時よりもはるかにアップしています。並木中等での授業をしっかりと聞いて勉強していけば必ず学力は伸びます。大切なのは、**当たり前なことを当たり前に行えるかどうか**。それは、**資質や才能ではなく、努力とやる気の問題**であるということを生徒たち自身が示してくれています。もちろん後期課程でも言えることで、先日のPTA支部総会でもお話ししましたように、**昨年・今年と、東京大学に現役合格した生徒たちのほとんどが入学時の成績は決して上位ではなかった**という事実からも明らかです。要は並木の授業や課題に6年間きちんと取り組めるかどうかなのです。**並木中等は成績上位で入学してきた一部の生徒を伸ばす学校ではなく、コツコツと6年間努力を重ねた生徒全員がどんどん伸びていく学校**です。



	総合	国語	数学	英語		総合	国語	数学	英語		総合	国語	数学	英語
入学時	56.2	57.2	54.1			58.3	57.4	57.2			58.6	57.4	57.5	
中3	63.2	57.3	60.6	64.4		中2	61.1	58.0	59.1	60.9				

後期生へ 模擬試験の活用法

先日、4年生は初めて高校の模擬試験を受験しました。4年生はまだ年に3回と少ないですが、6年生になるとほぼ毎月模擬試験があります。では、模擬試験は何のために受けるのでしょうか？4・5年生にとっての目的は次の2つです。

① 全国規模で自分の成績がどれくらいなのかを知る

大学受験においてライバルとなるのは全国の高校生(＋浪人生)たちです。自分の現在の成績がいったい全国規模でどれくらいなのか、自分が志望する大学を目指すには**あとどれくらい頑張ればいいのか**、を模擬試験を受験することで知ることができます。

② 自分の弱点を知る

模擬試験は校内の定期試験とは違い、出題範囲が広範囲に渡ります。いわゆる一夜漬けは通用しません。だからこそ本当の今の実力が分かります。今、本当に分かっていることと分かっていないこと、定着していることと、定着していないことがはっきりしてきます。これは、今の自分の弱点を知るチャンスです。当然やりっぱなしでは、いつまでたっても弱点を克服することはできず、同じ間違いをまた繰り返すことになるでしょう。「模試復習ノート」などを作ることによって、模擬試験が**弱点克服のチャンス**となります。

受験生である6年生にとっては次の目的も大切です。

③ 本番のシミュレーション

6年生にとっては、1回1回の模試がまさに本番のリハーサルでもあります。解き方や時間配分など、いつも、もしこれが本番だったら、という気持ちで受験してください。その緊張感と周到さが、本番の成功を招きます。たとえ模擬試験であっても、マークミスや自己採点ミスなど絶対あってはならないことです。「**練習は本番のように、本番は練習のように!**」

<保護者の方へ>

模擬試験の結果に関心をもたれるのはいいのですが、「志望校判定」に過敏にならないようにして下さい。**現役生は受験の終わる3月まで伸び続けます**。目標を諦めたときにその伸びも止まってしまう。特に6年生は、浪人生がいっしょに受験しているような模擬試験も受験しています。この時期、判定は悪くて当たり前。**大切なのは最後まで諦めずに努力し続けること**です。

進路委員コーナー

新しい年次になって7月までに、「進路講演会」や「OB/OG 進路ガイダンス」等様々な進路関係行事が各年次で行われております。そんな中で先月4年次・5年次合同で行われた「大学出前授業」の様子を5年生の進路委員大塚武君が報告してくれています。

また、6年生の進路委員植北莉佳子さんからは、これからどんどんとお世話になるであろう進路室の「赤本」についての報告があります。



【大学出前授業報告】 5年D組 大塚武君

私は大学出前授業で、「未来の宇宙推進」と、医工学の「人工臓器」についての講演を聴いた。どちらもとても興味のある分野だったが、特に「未来の宇宙推進」の講演の中では「**宇宙とは最後のフロンティアだ**」という言葉が、「人工臓器」の講演では「**治療不可能を可**

能に変えるための技術開発」という言葉がとても心に残った。どちらの先生もそれぞれの分野の最前線に行くエキスパートなので、そのような先生の講演を間近で聴けたことはとても良い機会だったと思う



【「赤本」について報告】 6年D組 植北莉佳子さん

進路室の天井まである本棚には赤本(大学別入学試験過去問集)が隙間なく並べられています。これだけの数があれば、みなさんの志望している大学の赤本もきっと見つかりますね。手が届かないくらいたくさん赤本があるので、自分の志望している大学以外の赤本も見てみたくなるのではないのでしょうか。友達と東京大学の赤本を手にとって見てみました。なんと5.5cmもの幅があり分厚いので、自分で買って持ち歩くのは大変ですが、進路室にあるので誰でも借りることができて便利です。進路室においてある赤本は貸し出しをしてくださっているので、もう受験勉強を始めている6年生も、これから受験を意識して勉強を始めるという下級生もぜひ利用してみてください。

ぐ〜んと差のつく夏休み やるべきことは何？

計画を立てる

長いようで短い夏休み、毎日無計画に過ごしていたら非常に後悔することになります。ぜひ計画を立てて過ごすこと。ただし**1週間に1日予備日を設ける**など、計画の修正ができるようにする。



学習記録を残す

何時間勉強したか、計画通り学習できたかを毎日振り返り、記録する。記録することで自分の計画の修正もしやすくなるし、一步一步着実に向上することができるはず。「昨日より今日、今日より明日」を目指すべし！

規則正しい生活を送る

夏休みだからといって絶対に夜更かしや寝坊をしない。ふだん学校で授業を受けているときと同じように過ごすのがベスト。もし家にいる時は、午前中3時間、午後3時間、夜3時間を目指して学習しましょう。もしあなたが受験生なら、当然この夏は、**トータル400時間が合否のボーダー**になるかもしれません。

課題にしっかりと取り組む

まずは夏休み課題が最優先。課題に追い立てられるのではなく、**課題を利用して自分の実力を伸ばす**ことを考える。ひと夏で学力のすごく伸びる人が何人も出てくるはずですよ。

苦手科目・苦手分野を克服する

夏こそ苦手科目・苦手分野克服のチャンス。目標を持って自分の決めたハードルを必ずクリアしてください。KK 週間や課外なども大いに利用しましょう。

ふだんやれないことをやる

自由研究や一人一研への取り組みなど、**ふだんできないことも**やれるのが夏休み。今年の夏休みに行った自由研究が将来あなたのノーベル賞受賞のきっかけになるかも！？

4・5年生へ オープンキャンパスのすすめ

この夏、**5年生は全員オープンキャンパス**に行くことになっています。4年生もし時間がとれば行ってみたいですね。行きたい大学が決まっている人はもちろん、決まっていない人にとっても、大学という雰囲気を感じること、勉強に対するモチベーションも上がってきます。**大学の説明のほか、個別相談、体験授業、その他各種イベントなども実施**しており、勉強にもなるし、楽しめたりもします。ただオープンキャンパスのお祭りの要素に惑わされることなく、**自分の本当にやりたいこと、研究したいことがそこにあるかどうか**をしっかりと自分の目で見てきてください。5年生はレポートが義務づけられていますが、他の年次生が行く場合も、いったいその大学の何を見てくるのか、しっかりと準備した上で見てくること。夏休みの貴重な1日をただ何となく過ごさないように。できれば、**自分の一生を左右するような1日**にしてきてください。

生徒に「オープンキャンパスに行きなさい」と勧めている立場上、自分も最近のオープンキャンパスはどんなものかと、3年前の夏に、御茶ノ水にあるM大学のオープンキャンパスに参加してみました。さすがマンモス大学だけあり、人・人・人の波。けっこう保護者同伴で来ている高校生が多いのにも驚きでした。入り口では大学案内や学部紹介のパンフレットはもちろんのこと、ウチワやタオルまでおみやげとして配っており、よく見ると、並びなおしてそのタオルセットを2つもらっている輩もいました(笑)。私が一番の目当てとしていたその数日前にテレビ番組の特集で見た「展望レストラン」でのランチは、その人の多さで残念ながら断念せざるをえなかったのは少し心残りでした。その代わりに、親切にも「M大学入試英語講座」というイベントがあったので、やはり高校生や保護者でいっぱいになっているその大教室に入ってみると、なんと入試問題の解説をしているのは、M大の教授ではなく、このイベントのためにわざわざ招かれた某予備校の講師であったのはまたまた驚きでした。

6年生へ 夏は受験の天王山

並木中等で6回目の夏休みを迎える6年生にアドバイス。みんなにとって今年の夏こそまさに「天王山」。この夏を制する者こそが、自分の目標に着実に一步近づくことができます。ぜひ具体的に行動してください。まずは「**国数英の基礎力完成**」、そして「**理社への本格的な取りかかり**」。いつ何にどれだけ時間を割くかを長期計画と短期計画で立て、軌道修正をしながら進めていくこと。今年は絶対に後で悔いの残らない夏休みにして欲しい。参考までに、ベネッセ調査による「**大学合格者に聞く：夏休み最も時間を割いた勉強は？**」によると、

基礎・苦手克服	91%
応用問題	6%
得意伸長	3%



夏休み：時間の大切さを考えよう

「86,400ドルのプレゼント」という話があります。日本では出典不明・作者不詳でチェーンメールで広がった話だと言われていますが、どうやら Alice Morse Earle というアメリカ人の文章のようです。数年前、24時間テレビのスペシャルドラマの中でも使われていました。時間の話で86,400ドルというのは86,400秒のことですね。86,400秒が何の時間なのかは勘のいい皆さんならすぐ分かりますよね。ちなみに86,400米ドルは約1000万円ぐらいです。毎日毎日あっという間に時間が過ぎていくように感じる自分にとっても、時間の大切さをもう一度考えてみたくなる話です。ぜひご家庭で会話のネタにいただければ幸いです。

「86,400ドルのプレゼント」

次のような銀行があると、考えてみましょう。その銀行は、毎朝あなたの口座へ86,400ドルを振り込んでくれます。同時に、その口座の残高は毎日ゼロになります。つまり、86,400ドルの中で、あなたがその日に使い切らなかった金額は、すべて消されてしまいます。あなただったらどうしますか。もちろん、毎日86,400ドル全額を引き出しますよね。私たちは一人一人が同じような銀行を持っています。それは時間です。毎朝、あなたに86,400秒が与えられます。毎晩、あなたが上手く使い切らなかった時間は消されてしまいます。それは、翌日に繰り越されません。それは繰り越してできません。毎日、あなたの為に新しい口座が開かれます。そして、毎晩、その日の残りは燃やされてしまいます。もし、あなたがその日の預金を全て使い切らなければ、あなたはそれを失ったことになります。過去にさかのぼることはできません。あなたは今日与えられた預金の中から今を生きないといけません。だから、与えられた時間に最大限の投資をしましょう。そして、そこから健康、幸せ、成功のために最大のものを引き出しましょう。時計の針は走り続けてます。今日という日に最大限のものを作り出しましょう。



- 1年の価値を理解するには、浪人した学生に聞いてみるといいでしょう。
- 1ヶ月の価値を理解するには、未熟児を産んだ母親に聞いてみるといいでしょう。
- 1週間の価値を理解するには、締切に追われる週間新聞の編集者に聞いてみるといいでしょう。
- 1時間の価値を理解するには、待ち合わせをしている恋人達に聞いてみるといいでしょう。
- 1分の価値を理解するには、電車をちょうど乗り過ごした人に聞いてみるといいでしょう。
- 1秒の価値を理解するには、たった今、事故を避けることができた人に聞いてみるといいでしょう。
- 10分の1秒の価値を理解するためには、オリンピックで銀メダルに終わってしまった人に聞いてみるといいでしょう。

だから、あなたの持っている一瞬一瞬を大切にしましょう。そして、あなたはその時を誰か特別な人と過ごしているのだから、十分に大切にしましょう。その人は、あなたの時間を使うのに十分ふさわしい人でしょうから。そして、時は誰も待ってくれないことを覚えておきましょう。

昨日は、もう過ぎ去ってしまいました。
明日のことは、まだよくわかりません。
でも今日は、みんなに与えられているものです。
だから、英語では「今」をプレゼント(= present)と言います。



"Yesterday is History. Tomorrow is a Mystery. Today is a Gift.
That's why it's called the Present."